

with コロナ時代における競技会

JDC 中部総局

1、with コロナ時代の競技会

コロナ下においても、競技会は社交ダンス文化において大変重要な役割を持つ。

当面は、主催者として十分な安全配慮を図った上で、選手・観客・主催者の三者にとって安全で有意義な競技会を企画・実施して行く。

2、競技会を開催するために必要な条件

公益社団法人日本ダンス議会は、競技会開催の必要条件としてその「競技会開催ガイドラインについて」（令和2年5月28日）において以下の3点を挙げている。

- ① 換気
- ② 体温測定・消毒・マスク着用
- ③ 身体的距離の確保

3、上記の点に鑑み、具体的に以下の対策を想定する。

① 換気

会場、控室にはそれぞれ外部に通じるドア又は窓が複数ある事が望ましい、その場合それらを常時開放し換気する。また、開放部が一か所の場合には、扇風機及びサーキュレータ等を活用し、換気能力を上げる。また、広い会場で空気が滞留しそうな場所には、扇風機等を設置し、それを防ぐ。

② 検温

選手→選手受付にて、お客様→会場入り口にて、役員→当日朝。

選手、お客様には検温係（非接触型）を設置。37, 5度以上ある場合は

接触型で実測し、再度 37, 5 度以上が確認された場合には、氏名連絡先等確認の上、帰宅して頂く。その場合、後日返金する。

③ 消毒

消毒ポンプの設置→控室、会場、建物の入り口、フロア入場口に置く。

消毒マットの設置→消毒ポンプと共に置く。

消毒係→数名の消毒係により、施設内の消毒を消毒スプレーにて随時行う。

フロア清掃→通常の会場備品のモップではなく、フロア清掃用のモップを別途用意し、随時フロアの消毒・清掃を行う。

④ マスク

競技中（選手）もマスク着用を原則とする。お客様、役員も常に着用。

お客様には、マスク着用に加え、飛沫防止の観点から全員にフェースシールドを用意し配布する。

⑤ 動線の確保

選手間、あるいは選手とお客様間の動線がなるべく交差しないよう、配慮する。

会場前にホールがある場合、当該ホールは換気、動線確保、密の回避の点から、パーティション等で区切らず、フリーのスペースとする事が望ましい。

⑥ 選手受付で、密が発生しないよう、受付時間を限定し分ける。

⑦ コンペ結果の貼り出し→密を避けるため、ネットでスマホに配信。

⑧ 「健康チェックシート」の事前配布、当日回収、保管

参加者である選手、お客様、役員、外部業者に競技会前 14 日間の体温測定結果、連絡先等を記入してもらう。

⑨ 控室を指定席制度にする。

当日、選手が控室等の場所取りに殺到する事が想定される場合には、ソーシャルディスタンスを図って設置された控室の席を指定席とする事も考える。

⑩ 通常数名で行う前日準備を、その業務量の多さと、業務内容把握のため当日役員全員で行う。

⑪ 観客の退場の仕方

競技会終了後の選手、お客様、役員の会場内からの退出が、密にならない様工夫する。

(時間差での退出など)

⑫ 競技終了後の密回避

競技会終了後、集合写真の撮影、先生へのねぎらい等、場合によっては回避するよう指示する。

⑬ 打ち上げ等の注意喚起

競技会場を出た後の問題ではあるが、大勢での打ち上げ等は当面自粛する様促す。

4、通常考えられる問題点

① 控室の収容可能人員とエントリー数

ソーシャルディスタンスを確保した上での控室における収容人数は、会場を確定した時点で計算出来る。よって、競技会の要項であるシラバスは、それを前提で作成し、選手の募集を図る。

② 動線確保

一般に、競技会のフロア会場および控室の広さに注目するが、その間を結ぶ動線にも十分配慮する。人は、動くという観点を忘れずに競技会全体の設計をする。

③ 人の動き

当日、会場での人の動きは想定の範囲を超える場合もあることを認識し、

スペース、時間、役員（人的パワー）において余裕をもって望む事が望ましい。

5、最後に

当該対策は、政府の方針、業界の方針、社会の状況の変化に伴い随時変更されるものとする。

また、ここで想定する対策を完全には履行出来ない場合でも、可能な限り実施に最大限努力する。

ただし、最終的に十分な安全配慮を果たせないと判断した場合には競技会を中止・延期する。

以上

令和2年9月1日